

平成30年度 府民意見交換会 in中丹 西脇知事と行き活きトーク

日時：平成30年11月23日（金）14:00～15:30

場所：舞鶴市西駅交流センター 3階ホール

○司会 それでは、平成30年度「府民意見交換会」 in中丹「西脇知事と行き活きトーク」を始めさせていただきます。

さて、現在、京都府では、中丹地域振興計画を含む、新しい総合計画の検討を進めているところです。府民の皆様とともに京都府の将来像を描くに当たって、知事が府内を回り皆様との意見交換を行っており、本日はここ中丹地域での開催となります。

なお、本日の模様は、後日、京都府の広報紙、ホームページなどで紹介をさせていただきますので、御了承願います。

改めて、本日の司会を担当させていただきます、貴志麻以子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では、まず初めに、京都府知事、西脇隆俊より御挨拶を申し上げます。

○西脇知事 皆様、こんにちは。御紹介いただきました、京都府知事の西脇でございます。

本日は、府民意見交換会を開催いたしましたところ、お寒い中、本当に大勢の皆様にご参加いただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。

今年は、府内全域で災害が大変多い年でありまして、特に中丹地域では5名の尊い命が奪われました。改めて心から御冥福をお祈り申し上げます。また、道路の被害や農林水産施設の被害など、府民生活に大きな影響が出ました。京都府では6月と9月に補正予算を組み、12月にも災害対応の補正予算を組む予定にしており、今後も精一杯頑張っております。

4月の知事選挙の際には、「安心」「いきいき」「京都力」という3つの公約を掲げました。その公約を実現するために、来年の秋に向け、新しい総合計画の策定作業を進めております。選挙中にも申しておりましたが、今まで経験したことがないのが、少子高齢化と人口減少社会でございます。それから、今年のように非常に災害が多い。そして、高齢化の問題でいえば、2025年には団塊の世代の皆さんが後期高齢者になるということで、非常に厳しい環境にあります。一方で、文化庁が3年後には京都に来るとか、京都舞鶴港のクルーズ船などのようにインバウンドの観光客の数が非常に増えているとか、綾部から舞鶴西までの4車線化など、インフラ整備もようやく効果があらわれ始めているということ

など明るい兆しもありますので、そのあたりも踏まえ、新しい計画づくりを進めていければと思っております。

この中丹でも、舞鶴港のコンテナ取扱量がどんどん増えておりますし、「海の京都」「森の京都」ということで、非常に観光客が増えております。そういうことも、きちっと振興計画の中に盛り込んでいきたいと思っております。今日は、10年後、20年後の地域のビジョンも含めて、皆さんから忌憚のないご意見を賜ればと思っております。

このような意見交換会は何回か開催していますが、隣に赤ちゃんがいるのは初めてなんです。泣かれたらどないしようかなと、ちょっと緊張しておりますが、皆さんよろしくお願ひします。

○司会 ありがとうございます。

なお、本日、御多忙の中、中丹地域の市長ほか皆様に会場にお越しいただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。

多々見良三舞鶴市長です。

山崎善也綾部市長の代理で、岩本正信企画財政部長です。

また、本日は国会議員や京都府議会議員の皆様にも会場にお越しいただいておりますので、御紹介をさせていただきます。

まず、衆議院議員の本田太郎様です。

次に、京都府議会議員の皆様を御紹介いたします。

舞鶴市選挙区選出の池田正義様です。

福知山市選挙区選出の家元優様です。

舞鶴市選挙区選出の小原舞様です。

そして、本日のコーディネーターは、福知山公立大学副学長の富野暉一郎様にお願いしております。

それでは、ここからの進行は、富野様にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○富野暉一郎 皆さん、こんにちは。今日はたくさんの方々にご来場いただき、誠にありがとうございます。これから、皆様のご意見を直接知事に聞いていただきまして、また知事からもコメントをいただくという形で進めさせていただきたいと思ひます。

今日の意見交換会の目的でございますけれども、既にご存じかと思ひますが、知事が、初めての総合計画を策定するにあたって直接現場にお伺ひして、府民の皆様と意見を交

換しながら、府の新しい姿をつくっていくというためのものがございますので、ぜひよろしくをお願いします。

本日のテーマは、「中丹での魅力ある多様な働き方・暮らし方を目指して」です。それでは、ご登壇いただいております皆さんを紹介させていただきたいと思います。

まず、農家民宿「クチュール」を経営されております工忠衣里子さんです。

それから、お茶の生産農家でいらっしゃいます、岡田晃英さんです。

その次は、Localize代表取締役の庄田健助さんです。

それから、美術家の新井厚子さんです。

改めて、西脇知事でございます。

それでは、これから意見交換に入りたいと思います。

会場の皆様にお願いがございます。質問・意見提出書という紙をお配りしておりますが、これはお越し頂いている皆さんからもご質問、ご意見をいただくためのものです。この時間中にご記入いただき、手を挙げていただき、回収させていただきます。後程、会場で紹介させていただくということもありますので、ぜひ記入いただき、提出いただければと思います。

それでは早速ですけれども、意見交換を始めたいと思います。まず、各パネリストの皆さんから自己紹介を兼ねまして、現在の活動の内容と、中丹地域の魅力についてお伺いしたいと思います。

お一人目は工忠衣里子さんです。よろしくお願いいたします。

○工忠衣里子 工忠衣里子と申します。よろしくお願いいたします。

本日はこのような場に呼んでいただきましてありがとうございます。ちょっと緊張しております。途中で、この子が少しおしゃべりしてしまうかもしれませんが、その場合はご容赦いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

私は、2年半前に大阪から移住してきてまして、綾部にIターンでやって来ました。大阪にいたときはシステムエンジニアということで、結構夜遅くまでハードな仕事をしていたんですけども、綾部に来てからは、本当に健康的な、より人間らしい生活を送らせていただいております。

今年の3月にこの子を出産しましたが、うちの集落で19年ぶりの赤ちゃんなので、ほんとに皆さん、アイドルのようにかわいがってくださいます。とても印象に残っていることがあります。私が出産して帰ってきたときに「これからこの子がドタバタしてご迷惑をお

かけするかも知れません」と近所の方に挨拶回りをさせていただきました。その時に「夢のようだ」と近くのおばあちゃんが言うてくださったことです。都会では「子供が走り回ることは夢のようだ」とは、なかなか言われませんので、印象的でした。子供が、本当に地域に望まれているということを感じております。

私どもは、小さな古民家で宿と旅行業をやっております、年間400名以上のお客様がこの山合いの村にお越しになります。半分は世界から半分は日本人の方です。先日いらっしやったフランス人の家族の方は、この集落でサワガニ採りをしたり、森にハイキングに行ったり、とても楽しんでくださいました。最近では、お客さまが自分の国の絵本を持って来て、私の息子に読み聞かせをしてくれたら、ご飯代が無料になるという企画をしております。これから息子がどのような言葉を話すようになるのか、すごく楽しみにしています。それから、都会の方をお呼びし地域の方を巻き込んで、稲刈り体験、田植え体験をすることもあります。地域の方も本当に喜んでお手伝いをさせていただきます。

綾部はここ数年、「シャガの森」が大変有名になってきました。マレーシアの方やインドネシアの方も本当にここはすごいと仰っておられます。海外の方は杉もお好きで、シュッと立っている姿の木が他の国にはあまりないらしくて、神々しいと思われるようです。私たちからすると、杉の木はどこにでもあって、花粉が嫌われていて、あまりありがたい存在なんですけども。

綾部の魅力というのは、主に3つあると思っております、1つ目が「自然」です。田んぼや山、川があって、それだけで外国の方も都会の方も本当に心の底から楽しんでいらっしやいます。この朝も、雲海が立ちこめてあたりが一面真っ白になっていて、マレーシアからお越しの方が、まるで子供のようにはしゃいでおられました。私たちもすごく紹介のし甲斐があります。

2つ目は「人」です。多分、この地域の方というのは、もともと大陸の方を受け入れたり、京都とか東京に行く方々を泊めるお宿をしていたりという歴史があって、他の地域よりもすごくオープンなんじゃないかなと思っております。私の住む集落には、「何もないけど上がっていきないな」というタイトルのレシピ本を書かれたおばあちゃんがいらっしやいます。本当にそのタイトルのとおり、着飾らずにそのままでお迎えするという心意気を感じます。私どももツアーの一環で、一般のお宅を訪ねてお茶などをいただくというを提供しているんですが、それが大人気で、地元の方もすごく楽しんでくださっています。この間行きましたら、世界地図を買って来られて、「あんたのところがよく外国の人を連れ

てくるから、これでどこから来たかチェックしたいんだ」と仰っていました。大きな観光地とかではないんですけども、そんな心意気を持つ人というのは、観光の面から見ても財産だと思っております。

最後は「アクセス」です。大阪から1時間半、京都からも1時間半、同じぐらいで来ることができます。それ以上となると、ちょっと遠いかなという気もしますし、逆に1時間ぐらいで来られてしまうと、日帰りでも行けるかなと思ってしまいます。1時間半ぐらいだと、ちょうど旅行としても、ここら辺を少し周遊してみようかなという気になる。中丹というのは、旅行の面からもいいところにあると思っております。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

それでは次に、岡田晃英さん、よろしくお願ひします。

○岡田晃英 皆さん、こんにちは。先ほどご紹介に預かりました、茶農家を営んでいる岡田晃英と申します。

私は、29歳のときに大阪から来て、京都府立農業大学校の茶業経営コースに入学して、2年間お茶の勉強をしました。そして当時の校長先生が、舞鶴のお茶農家さんを紹介してくれまして、それで現在、舞鶴の由良川沿いで茶農家を営んでおります。

そこで4年ほど前から、舞鶴・綾部・福知山地域の若手の茶農家を中心に「のくに茶業青年団」という組織を立ち上げ、京都府や各関係機関の力をお借りして、この地域でできたお茶をイベントで紹介するという活動を行っています。また、農村地域の高齢化に伴って田畑が荒れていくので「岡田君、水田やってくれへんか」という話がちょいちょい来るようになりまして、今ではお茶だけではなくて、水稻、そして地域の特産である万願寺甘とうを少々栽培させてもらっています。

この地域の魅力について、このテーマをいただいてから考えていたんですけど、やはり第一に、この中丹地域というのは茶栽培に適した環境だということです。その証拠といたしまして、あまり知られていないのですが、かぶせ茶の部門で産地賞を11年連続で受賞しています。また、この辺の農家さんは農林水産大臣賞をはじめ、さまざまな賞をいただいております。製造する技術、栽培管理方法、そしてこの大自然に恵まれている環境、この3つがあって、さまざまな賞をとっているという裏付けがあります。ですから、私たち新規茶農家でも高い評価を得て茶の取引をしてもらえます。こんな有利な条件がそろっていますので、新規就農する方には、是非この地域に来てほしいと考えています。

この前、私の住んでいる大川という集落で、都会から嫁いで来られた方と「この地域の

魅力って何だろう」という話をさせてもらいました。その方は、食を通じて四季を感じられるということだと言っておられました。言われてみれば、新米、新茶がとれて、季節の野菜をいただき、また自分で栽培することによって、知らず知らずのうちに四季を感じている。そんな大自然に恵まれた環境で僕らは暮らしているんだなというのが、この地域に住んでいたらあまり気づかないんですけど、すごい魅力的なことだと思っています。

そしてもう一点。私も現在、1歳9カ月の娘がいます。子育ての面に関していえば、家の中を走り回ろうが、大声で叫ぼうが、夜泣きしようが、何してもほったらかしで、周りに気も使わなくてもいいので、非常に助かっている面があると思います。その反面、大自然すぎて、マムシやらマダニ、自然の脅威とも隣り合わせなので怖い部分もあるんですけど。それも含めて子育てにおいては大変ありがたいです。あと、舞鶴市では、「あそびあむ」という子育て交流施設、遊びの広場を東舞鶴につくってくれていて、無料で開放いただいております、私たちが休日には利用しております、大変助かっております。

これが、この地域の魅力というお題をいただいたときに、私が思った3点です。

○富野暉一郎 どうもありがとうございました。

お二人から、農業や農村環境を生かした暮らし、あるいは、生業（なりわい）の魅力についてお話をいただきました。ここで知事のコメントを一度お願いしたいと思います。

○西脇知事 ありがとうございます。お二人は移住をされてきたということですね。全国どこでも、ずっとその地域に住んでいる人からは、「つまらないところや」とか「早く出ていきたい」とか、圧倒的にマイナスのほうの評価をよく聞くんですけども、こうやって改めてその地域の良さを聞くと、どうして我々は、なかなかそれに気づかないのかと率直に思います。

工忠さんからは、外国の方がどういうものに興味を持つのかというお話がありました。心の中では我々も感じている魅力を、どうやったらより高めることができるのか、住民自身がもっと着目していくことが重要かなと思いました。

それと、もう一つ感じたのは、やはり一定のアクセスの良さが必要だということです。まずは来ていただかないと、どうしようもないというのは皆さんおっしゃいます。一度はそこにアプローチができることが必要だと思いました。

お二人に共通していることは、子育て環境ですね。私は「子育て環境日本一」というのを目指しております、やっぱりそういう話が出るということは、いかに皆さんの関心が高いかということだと思っています。ここは騒いでも大丈夫、というお話がありましたが、そ

れにプラスして、もっとこういうことがあったらいいんじゃないかということがあれば、また後で聞かせていただければと思います。

いずれにしても、今お聞かせいただいた、外国人から見た魅力、自然の魅力、それから食を通じて四季を感じるということについては、まさに今、食をキーワードにして、より広域的な観光とか、農林水産業の魅力アップなどいろいろ考えています。大変なところもあると思うんですけども、引き続きよろしくお願ひしたいと思っています。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

それでは続きまして、庄田健助さん、よろしくお願ひします。

○庄田健助 皆さん、こんちは。株式会社Localize代表の庄田と申します。

今回は、多様なライフスタイルの方が集まっているディスカッションだと思うんですけど、僕もすごく変なライフスタイルを送っています。出身は兵庫県尼崎市なんですけれども、大学時代、スキーをしたくて北海道に行きまして、そこで建築、都市計画に出会って、まちづくりっておもしろそうだなと思って、その業界に進もうと。そのジャンルだったら、大体、再開発や道路を通したりすることを東京でしたいと思うのが主流なんです。でも僕はみんなと逆で、人口が減っていく中で、地方のほうがもっとおもしろいんじゃないか、そこにもっと日本の良さみたいなものが発掘できるんじゃないかと思いました。それで、地方のまちづくりみたいなのをするようなところを探して、大阪の会社に就職しました。そこから一番初めに来たのが福知山で、商業施設の開発とか、商店街の活性化ということをやると、地元の方々とやっていると、皆さんとどんどん仲よくなって行って、好きになって行って、もう大阪を捨てて、結局、福知山に来ました。ただ、会社を捨てるということは、独立するということなんです。妻も子供もいたんですけども、北海道のときに結婚した妻でしたので、妻の拠点は北海道へ移して、結果的に、私は、福知山と北海道の2か所を拠点とするような形で生活することになりました。これはこれでいいかなと思って、今はずっとそういう暮らし方をしています。

地元の方々と一緒に、投資活動やあまり補助金とかを使わずに持続的にまちづくりができるような活動をしようとしています。例えばワンダーマーケットという、新町商店街という寂れた商店街の中で、月1回、起業者を増やすような取り組みなどを行っています。できるだけ、こだわりのお店なんかに来ていただいて、メンバーみんなでチョイスしています。ロードサイド型の商売というのは大手の資本がやっていて、地元への愛着があまりない方が経営されていることが多いです。福知山とか中丹とか、地元の方が成長するために、

大手ロードサイドにはないような、手づくりとかこだわりの一品だとかいうことを大事にしているような方々に集まっています。ファンを集めて行って、そこで商売をして成功すれば、いずれ地元根づいた商売ができるんじゃないかと思いついてやっています。できるだけ年配の方も若い方も一緒にメンバーを組むようにして、商店街の組合の皆さんとも一緒に取り組んでいます。

福知山駅前の商店街では、地元のおじいちゃんと若手の経営者で、商店街とは別に会社をつくっています。空いた建物をどんどんリノベーションして活用して行って、若い人が経営する。そこで利益を上げて、次の建物に移っていく、というような形で進めています。

他にも、福知山城の前にゆらのガーデンという商業施設をつくったりだとか、商店街のお客さんと一緒にアーケードを撤去して、ファサードをきれいにして、空いているところにはお店に入ってもらったりとかいうような形で、ちょっと変化のあるようなまちづくりを一軒一軒、積み重ねていっております。

中丹の魅力ということなんですけども、僕は地元が尼崎なので、そこに比べたら非常にコンパクトな街に文化資源というのがたくさんあるなど。また、豊かな自然がある一方でインフラなんかはしっかり整っていて、適度なおもしろいお店もあると。暮らすのに不便なく地元の方々も距離が近くて、あまり悪いことはできないなというものもあります。人間らしいつき合い方ができるというのがいいなと思います。

○富野暉一郎 どうもありがとうございます。

次に、新井厚子さん、よろしくお願ひいたします。

○新井厚子 新井厚子です。よろしくお願ひいたします。

私は、福知山市の大江町出身で、長くスペインのバルセロナで暮らしてございまして、4、5年前に戻ってまいりました。美術に関わる仕事、活動をしております。皆さん、美術と言われますと、絵を描くのかとか言われるんですけども、絵はあまり上手ではありません。アート、美術ということで言いますと、すごく幅が広く、私は、あるものをちょっと違う角度から見せたりとか、違う切り口で見せることで新しい発見をしたり、いつも気がつかないものに光を当てておもしろいことを発見したり、違う考え方を発見したり、そうことをしています。

今までやった仕事とかをちょっとだけ紹介させていただきます。バルセロナでつくったもので、これは紙なんですけども拓本という技術でとっております。拓本というのは、普通ですと石碑の立派な文字などを写すのに使います。これはバルセロナの再開発地の中心



にあった壁の拓本なんです。古い町に、おもしろい壁面がたくさんありまして、唐草模様の立派な模様が古いビルにつけてあったりとかしました。あと、落書きとか、人の思い出とか、歴史みたいなものを記録したり、それをギャラリーで展示したりする仕事をしていました。バルセロナと同じように、舞鶴にはたくさん市場があります。小さい商店が生きている町で、それはすばらしいなと思いました。市場ってすごくおもしろいんですよね。そこが私にとってはミュージアムという感じで、食べ物でも雑貨でも、そこに売っているものを1つの作品として見せるようなことを、子供のワークショップなんかも含めてやっておりました。大阪の下町にあるすごく小さい市場でもやらせていただきました。

バルセロナですごくよかったのは、住んでいたところから歩いて15分ぐらいの間に3つぐらい市場がありまして、その上に文化センターや図書館もあって学童があつてみたいな感じでした。市場で何かやって、学童の子とワークショップして、展示はその1階のギャラリーでやってみたいな感じでした。すごくいいシステムだなと思っておりました。

また、料理人の方と子供たちが一緒に「夢ごはん」をつくる、夢の調理法というものもやっておりました。

福知山の三岳のほうでは、高齢者の方と一緒にいきいきサロンというのをやっております。その中で「方言かるた」をつくるワークショップをやりました。方言って、すごくおもしろいと思うんです。独特の言い方とかがありますので、それをかるたにして置いときたいなと。こちらに住まれる人に教えてあげるようなシステムができたらいいなと、教本のモデルをつくったりとかしていました。

さいたまトリエンナーレというさいたま市の福祉施設で行ったワークショップでは、その辺にあるお掃除のモップとか、ボールに色をつけて書いたりとか、車椅子に色を塗って絵を描いたのを使って、舞台装置をつくったりとかしていました。美術って、別に絵が上手じゃなくても、いろんところで遊べるし、使えるし、楽しいものがあるなと思っています。

それで、この辺の魅力ですが、やっぱり歴史があつて、昔、大陸から入ってきた人の文化が伝わっていて、そこから続く言葉が残っていたり、そういうことはすごい大事だなと思いました。例えば、関西の言葉に押されていますが、ここならではの言葉というのを残していきたいなと思っています。

あと、先ほども言われていましたけど、やっぱり地の利ですね。1時間で海へも行けるし、山でも遊べるし、都会にも行ける、というようところがすごくいいなと思います。

あと一つは、人のつながりです。それはいいこともあるし、ちょっとうっとうしいなどいうところもありますけど、コミュニティーがすごい強いのが魅力の1つだと思っています。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

今、お二人のお話は、まちづくりのお話でありました。魅力のある町をどういうふうにつくるかということについて、町のしつらえであるとか、人のつながりであるとか、そういうようなことについてお話があったと思います。

それでは、知事、コメントの方よろしくをお願いします。

○西脇知事 庄田さんのお話ですが、私は国土交通省にいた際、中心市街地の活性化というのをやっていて、担当の課長だったんです。でも、なかなかうまくいかなかった。今の話をお聞きすると、福知山で人が集まって、年齢構成もバラエティに富んで、しかも経営としても一定の採算がとれている。私たちは、どうしても商店街の中だけでどうしようかというふうに思うんですけど、もう少し大きい「まちづくり」の中で、できるところからやっっていこうということかな、と思いました。

あと、新井さんの大陸の話ですね。私は選挙で「安心」「いきいき」「京都力」を公約にしたんですが、その中の「京都力」では、歴史や伝統のことも言っていたんですけど、それぞれの地域に、ものすごい文化や蓄積があるんです。このあたりは、平城京、平安京よりもっと古い歴史があるはずだと思うんです。ということをもうちょっと突き詰めて、魅力発信にも使えないかなと思いました。「言葉」はなかなかいいかもしれないですね。関西弁じゃない、恐らく大陸とのつながりもあるような言葉も発見できるかもしれないと思いました。人と人とのつながりというのは、さっきから皆さん共通で言われていることなんで、そうしたことも、ぜひ計画の中で一つの要素として強調できればと思います。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

それでは、私も知事のお話を受けて少しお話ししたいんですが、実はこの地域、中丹は、皆さん多分ご存じだと思いますけど、合計特殊出生率が非常に高い地域です。例えば福知山市は1.96、これは京都府内1位です。それから舞鶴市が1.87、これは2位です。それから綾部市が1.63で、府内で6位。これは何を意味しているかということ、今、皆さんのお話にもありましたように、実は子育て、あるいは住むのに大変いい環境で、安心して産み育てる条件がそろっているということなんです。それをそれぞれの活動の中でどのように受けとめて、どのような活動をされているかということが、今回のお話だったと思います。

厳しい状況はありますけれども、この地域のさまざまな魅力、そしてさまざまな力強い動き、そういうものをどういうふうにも、新しい京都のあり方として全体的に取り込んで、新しい京都をつくっていくか。こういうことが問われているんじゃないかと、そういうふうに思いました。どうもありがとうございました。

2巡目では、少し掘り下げた話をさせていただきたいと思います。また、最初にお願い申し上げましたけれども、話し中に手を挙げるのは、なかなか難しいと思いますが、せっかくの機会でございますので、皆さんのほうから御質問、御意見などございましたら質問票にお書きいただき、手を挙げていただきたいと思います。お願いします。

それでは、レディーファーストということで、新井さんのほうからお願いしていいですか。よろしくお願いします。

○新井厚子 これからやりたいこと、取り組んでいきたいことのお話なんですけれども、ちょっとスライドをお見せしたいと思います。やっぱりこの地域でおもしろいことをどんどん掘り下げていきたいというのと、外と中との橋渡しの仕事をしたいなと思っております。

ここにある写真は、この近くにいさぎ会館という、昔の公民館を改装したアートスペースです。そこで実施されている「ご近所大学」の企画のひとつとして、私は「庭科」というのをやらせていただいています。ご近所大学というのは、ご近所とか近くにいる方が持っているものを取り上げたり、そこから学ぼうという趣旨で、去年はまち歩きをやりました。今年は、商店街の裏の庭で何かできるんじゃないかということで、月に1回集まっています。ちょっと掘り返してみたりとか、庭に落ちていた枝や棒や瓦なんかで音楽をつくりましょうということで、コンサートをしたり。これがすごく楽しかったです。また、庭で朝ご飯を食べてみたりとか。そういうことをやっています。

都会に行けば、いろんな刺激がありますけれども、おもしろいことって、よく見たら足元にいっぱい転がっていて、もしかしたら自分ちの庭でも何かできるかもとか、そういうところなんです。

あと、商店街については、先ほど庄田さんもお話しされていましたが、商店街の空き店舗を活用して、去年は「京都Re-Search」、今年は「大京都」という名前のアーティスト・イン・レジデンス事業を京都府と福知山市で行っておられました。私は、そのお手伝いをしておりました。私は、海外にいた頃は、どこかへ行って何か制作をしたりするというアーティスト・イン・レジデンスについてはお世話になる側だったんです。10回ぐ

らい、いろんなどころでやらせていただきまして、そこでワークショップをやったり、展覧会をやったりしていました。

今回は私、地元におりますので、それをお手伝いする側として取り組んでいます。この商店街の家具屋のシャッターを開けていただいて、アーティストの方が活動を始め、展示をされました。そしたらすごく賑やかになって、ご近所さんも「何してんの？」みたいな感じで集まって来られて、何かすごくいい感じで広がったと思っております。

地域の「伝説」を収集しておられるアーティストの方がいらっしゃって、そのチームの方がお越しになり、大江町の昔話を語る会の方と私も、そこに参加させていただいています。ご近所さんも集めて勉強会をやっておられたり、リサーチのために地域を回ってお話を聞いたりしております。

この方は、福知山の元お風呂屋さんとか、大江山で今は体育館として使われてる昔の映画館とか、いろんな場所で展示をされています。大江町の元映画館は、奥にすごく立派な映写機があったりとか、地元の方でも「こんなん見たことなかったわ」みたいに、新しい発見ができたりするところが、おもしろいなと思っています。

そんなふうに、何か新しいことをやりたいとかおっしゃる方の話を聞いたり、お会いしたりするんですけど、その受け皿がなかなかないというところですので、その仕組みをつくるために活動できたらなと思っております。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

それでは、工忠さん、よろしく申し上げます。

○工忠衣里子 これから取り組みたいことですが、子育て世代の移住をもっと促進していきたいと思っています。私が住んでいる上林地区ですが、学校区でいいますと大体1,500人くらいがお住まいになっています。そこでは毎年70~80名くらいの方がお亡くなりになっていくという、高齢化が進んでいる地域です。そこで2年前できた小中一貫校は、全校生徒が40名程度です。1,500名くらいの中で小中学生が約40名。高校生はちょっと省いていますけれども。そのような地域です。

地域に小・中学校があるかないか。これが本当に、今後の将来を大きく変えると思っています。これがなかったら、子育て世代は移住の選択肢として綾部を、この上林地域を選ばないと思うんです。これは絶対、死守しないといけないと思います。いかに子育て世代をこの地域に誘致してくるか、これが今後の課題になってくるかと思っています。

この小・中学校は、実は外部の者も授業参観に行けますので、先日、行ってきました。

そうしましたら、この子が入るのは6年後ですけれども、早く入れたいなというぐらい、魅力的な学校でした。まず全校生徒が40名ですから少人数です。先生が20名以上いらっしゃるそうで、もうほぼ個別指導みたいなものです。1学年は3名か5名ぐらいなので、授業中に居眠りはできないですが。どんどん発言の機会が回ってくるので、物おじせず、手を挙げてちゃんと発言できる子になっています。これがすごく基礎学力がつくらしいので、皆さん塾には行かずに、しっかりした教育を小学校、中学校で受けられています。

あと、みんなが兄弟のような関係だそうです。人間が育っていく上で、上をまねて下の面倒を見ていくというのは教育上とてもいいそうです。これが自然にできるという環境は、私はとてもいいなと思っています。

あとは、自然に親しむようなカリキュラムもたくさんありますので、それも本当にいいと思っています。そういう良い点を都会の方はなかなか知らないなので、移住に興味のある方にどうやって情報を届けていくか。それが、これから私たちがしたい、必要だと思っていることです。

例えば、私どもはツアーがつくれますので、移住を検討されている方に学校の見学ツアーも入れていったらどうかと思っています。小規模の学校は、そういうところもある程度機動的に柔軟にできると考えていますので、校長先生に提案させていただいたり、今後、実験的にいろいろとやっていきたいなと思っているところです。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

新井さん、工忠さんのご発言をいただきましたので、知事、よろしく申し上げます。

○西脇知事 時間の関係もありますので簡潔に申し上げます。新井さんのお話では、地元には非常にいい資源があるが、なかなか気づかない。そして、外国人の方に気づかされる。それらについて、どういう受け皿をつくり、橋渡しをするのか。そういうものをきちんと作るようなことについても、計画にぜひ書きたいなと思います。

それから、工忠さんがおっしゃった小・中学校の維持。これは確かに深刻な問題なんです。もちろん子育て世代の移住については、移住コンシェルジュもおりますので、より積極的にやりたいと思いますが、まずは地元の子育て世代をどうするのかというのも非常に大きな課題です。小・中学校については、最低限の人数がいないと維持できないのは間違いないと思いますので、それについても努力したいと思います。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

続いて男性のほうに移らせていただきまして、岡田さん、よろしく申し上げます。

○岡田晃英 今後、自分で取り組んでいきたいテーマについては、私は茶農家なので、急須で入れるお茶の普及活動に、今後力を入れていきたいと思います。いわゆる食育です。

僕がこの業界に入る前は「お茶＝まずい」というイメージでした。子供の頃から大阪の実家で飲んでいたお茶です。急須にお茶っ葉を入れてお湯を入れて、子供やから熱いのが嫌やとほったらかしにして、そして冷めた頃に飲む。そしたら、ものすごく渋みの強いまずいお茶になってしまう。また、急須の中に入ったままのお茶っ葉に、もう一度お湯を入れて飲む。つまり、色つきのお湯を飲んでいるんです。こんなもん、うまいわけがないんです。小学生のとき僕の家はそんな感じで、知識がなかったために、お茶イコール喉を潤すお湯、色つきのお湯みたいなイメージばかりだったんです。思い返してみれば、中学校で給食のときに、やかんに入った「色つきのお湯」が出るんですけど、誰も手をつけないような状態になっていました。「お茶＝無料」だとか「お茶＝まずい」になってしまっているんです。その意識があるために、お茶の消費量というのは、どんどん減っていると思います。急須がない家庭が増えているという話もよく聞きます。だから今後も、「のくに茶業青年団」の活動の中で、小学校、中学校、高校と、要望があればお茶の入れ方の授業をしていきたいと思います。それを通じて、正しいお茶の入れ方を小さいときから学んでもらう。ペットボトルにはない魅力について気づいてもらって、その子供たちが大人になったときに、お茶の消費量が増えていけばいいな、という先の長い話です。10年、20年先を見据えた活動になっています。私が茶農家である以上は、小学生、中学生、高校生に対して食育を通じて、正しいお茶の飲み方というのを伝えていきたいと思っております。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

それでは、次の庄田さん、よろしくお願ひします。

○庄田健助 僕たちは、地元の経営者の方、特に若い方、もちろん中には年配の方もいらっしゃいますが、皆さんと一緒にメンバーを組んで活動しています。そこでよく議論することは、福知山、そして中丹の発展のためには、外から自分たちの経済圏にお金が入ってくることを考えるべきだと。自分たちのものを買っていただいて、その経済規模を広げる。そういう話をする中で、例えば、福知山、中丹には、さまざまな魅力的な農産資源や歴史があるので、そういったものをいかに外貨を獲得できるようなものに育ててあげるのか、それを事業ベースで育てていけるのか、ということ意識して活動しています。

全然違うジャンルで商売をやっていた若い方が栗農家になって、京都の丹波くりのブランドを広めていく取組をされているような方がたくさんいらっしゃいます。地域がどうや

ったら経済的に発展していくのかというマインドを持って、民間の若い事業者たちが取り組む状況は、非常によいことだと思いますし、僕としてもこれからそういう事業をやっていこうと思っています。

京都府ではこれから総合計画を立てられるということですがけれども、例えば、防災面を除くと、インフラはもうある程度整備されていると思います。ですので、これからまた道をつくるとかではなくて、例えば福知山駅前のゲストハウスに来られた海外の方が、福知山を拠点に2・3泊して、伊根へ行ったり、天橋立へ行ったり、竹田城へ行ったり、また戻ってきたり、というのをどんどん繰り返して、まさに北近畿の玄関口として、ハブ的な働きを発信するような施策というのを是非やっていただけたらと思います。

○富野暉一郎 ありがとうございます。

ここで、知事からのコメントをお願いしますが、ご質問いただいている次の2つについても、お答えいただきたいと思います。

1つは、近年、台風などの災害が頻発している中で、家屋や農地が浸水したり、裏山が土砂崩れを起こして大変危険な場所もあります。安心して生活ができるよう対策をお願いしますという、これはご要望でございます。

それから、舞鶴港に客船がよく停泊して、街を歩く観光客が多くなっているにも関わらず、街なかが賑わっていないように感じます。より多くの人に、もっとお金を使って楽しんでもらうためにはどうしたらよろしいでしょうか、というご質問がございます。

一緒にお答えいただければと思います。

○西脇知事 まず、岡田さんのお茶がまずいというお話。私はそこまで思わないんですけど、子供たちは、お茶はペットボトルに入れて出てくるものだと思っている、というのはよく聞く話です。本来の味が評価されないというのは、作っておられる農家の方に失礼です。しかし、食育もありますが、あまり教育的な要素を強調し過ぎると嫌がられる場合がある。おいしければ、だいたい大丈夫のような気もするんですよね。だから、そこは是非とも皆さんで努力していただければありがたいなと思います。

それから、庄田さんの話を聞いていると、農林水産業などの第一次産業は、いつの間にか「誰かがつくってくれて自分たちは消費するだけ」ということになってしまっておりす。でも、それに付加価値をつけ、どう組み合わせるのかということを考えるのは、非常に大事ですし、我々にも向いている産業だということ、これもまた外国人に気づかされるんです。農林水産業、特に農業は高齢になっても参入の可能性があるということにおい

ては、非常にいいお話だと思います。

それともう一つ。僕らがどこかへ旅行に行ったりすると、ものすごく慌ただしいですよ。ね。だけど、外国人の方はすごくのんびりしていて、レンタカー借りたら時間が余る、自転車をお貸してくれと言われてたらしいんです。そういう感覚を我々もよく理解して対応することが必要ななと思いました。

ご質問の災害の方は、これは全ての人間生活、経済活動の基礎なので、万全を期したいと思います。舞鶴港の方ですが、今日は舞鶴市長もおられますけど、本当に全くそのとおりでございまして、京都市内に直接行かれる方も多いんですが、こちらの地域にも絶対魅力があるんです。クルーズのオプションツアーに参加して行かれる方と、自分個人で探される方。オプションツアーは、海の京都DMOにいくつか造成をしてもらって、舞鶴市内や天橋立、伊根などを回るようなコースについて、どんどん営業してもらいたいと思います。個人で行かれる方については、埠頭や西舞鶴の駅で観光案内所のデスクを設けて、モデルコースを案内したりしています。あと、外国の方は、昼から飲みたいという人も多く、飲む場所がなければ留まっただけじゃありません。店舗に呼びかけて頑張って開けていただいているうちに、若い人がやってみようとか、そういうようなことにつながると思います。我々もなるべくお金を落としてもらえよう努力をしたいと思います。

○富野暉一郎 どうもありがとうございました。

若干、時間が押しておりますので、最後に4名の皆様に、これだけは言っておきたいということがございましたら、手を挙げていただけますか。

○新井厚子 こういう会でよくテーマに上がる観光のことなんですけれども、私、バルセロナに長いこと住んでおまして、バルセロナはすごい観光都市なんです。街は観光で成り立っているんですけれども、観光が街をぼろぼろにしている、住民はもうホテルは要らないと言っている、という話もあります。

観光客は通り過ぎていきます。やはり文化というものは、いいものがあれば、そこに住みたいと思ってくれる人が来るようなものであってほしいと思います。それはすぐにはできない。イベントをやっていくら儲けた、どれだけ人が来た、ではなくて、もっと長い目で見ていくもんじゃないかなと思っています。

○富野暉一郎 いかがでしょう。他にご発言はございますか。よろしいですか。

それでは、最後に知事から改めて一言よろしいでしょうか。

○西脇知事 本当に、今日はありがとうございました。最後の新井さんの言葉は、まさにそ



のとおりで、観光というのは入り口なんです。ただ、1回来てもらわないとなかなか魅力がわからない。その後に交流が続くということです。当然なんですけど、住んでいる方がその地域にある文化に気づき、それをより良い生活に持っていく。逆に言えば、そういう生活、文化に根差したところに観光に来てもらうというのが非常にいいのかな、というふうに思います。

本日は、今まで我々が気づけなかったことをいろいろお教えいただきましたので、是非とも計画づくりの中に生かしたいと思います。ありがとうございました。

○富野暉一郎 ありがとうございました。

それでは、時間もまいりましたので、私から一言だけ申し上げたいと思います。

この地域って元気がないとか、何も魅力的なものがなくてどうしようもないというお話をされる方がすごく多いんです。若い人が出てってしまうのは当たり前だということを言われる方もいらっしゃいますけども、今日のお話にもありましたように、この地域は本当にいろいろな可能性を持っています。そして、これからの希望も持てる地域です。京都の中でも非常に大きい期待が持てる地域だと思いますので、今日のお話を踏まえて、知事も、新しい計画の中で、この地域そして京都全体の発展のために、是非、頑張ってくださいようお願いしたいと思います。

それでは、これにて今日のお話を終わりにしたいと思います。意見交換、どうもありがとうございました。失礼いたします。

○司会 富野様、本日のコーディネーターを務めていただきまして、ありがとうございました。

それでは、最後に西脇知事から、本日の意見交換会の締めくくりに当たりまして、ご挨拶をお願いいたします。

○西脇知事 今日皆さん、お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。また、コーディネーター、パネリストの皆様、ありがとうございます。

時間も短かったんですけども、今日の場合だけでなく、引き続きいろいろご指導いただきたいですし、それぞれ大変だと思いますけれども、中丹のために頑張ってくださいいなと思っております。

これから計画づくりをやっていくんですけども、それぞれの地域にはそれぞれの個性と文化があって、それをベースに今の生活がある。京都は、非常に長い時間をかけてそこを醸成してきましたが、一方で古いものを大事にしながらも、常に新しい流れ、新しい風

を入れてきたということもあります。今日は移住して来られた方もおられますので、これからは地域の魅力を高めて、そういう機運を加速していきたいと思っています。本当に今日はありがとうございました。会場の皆さんもありがとうございました。

○司会 これをもちまして、平成30年度府民意見交換会 in 中丹、西脇知事と行き活きトークを終了させていただきます。

ステージ上の皆様、そして西脇知事、また、本日お越しいただきました会場の皆様、長時間にわたりありがとうございました。